

第1回宇陀市総合計画審議会

日時：令和3年7月5日（月）午後2時～

場所：市役所4階 大会議室

1. 開会
全員出席

2. 市長(策定委員会委員長)挨拶

金剛市長：

皆様、改めまして、こんにちは、金剛でございます。よろしく申し上げます。本日はお忙しい中、全員にご出席いただきまして、たいへん感謝いたします。私自身のマニフェストでも、「安心と希望を取り戻す！」あるいは「誇りと活気ある奈良県東部の中心都市」「宇陀っ子の笑顔あふれる都市へ」「医療福祉の充実」等を訴えてきたところであります。そういった中で今回、12年間の基本構想を4年ごとに「前期・中期・後期」と3つに分けた構成になっております。今回は中期の4年間の計画ということで、前期を振り返って、後期に繋いでいく、そして、宇陀市の将来のあるべき姿を目指していく計画です。総合計画の中では中心のかなめとなる4年間だと自分自身は思っています。市長として、この計画に関わることは、やりがいと責任をたいへん感じているところであります。実は先日、全職員と言いますか、幹部を集めまして、今回の審議会に向けて、職員に私から5つほど指示をいたしました。1つ目は、先行きがなかなか見えないと言うか、世の中の変化が速すぎて、先手、先手の対応がなかなかしにくくなっています。そういう時代に向けて、宇陀市としてのよさと言いますか、強みと言いますか、そういったものをどう活かしていくかを考えてほしいということです。そのためには、できるだけたくさんの方の市民の方に意見を聞いてほしいと指示をいたしました。子ども、そして、子育て世代の方を特に意識してほしいとも言いました。2つ目は、SDGsの17の目標も意識してほしいと言いました。3つ目は、各部署でいろんな施策がありますが、よく言われています「縦割り」は破りたいというのは、ずっと言っていますので、この計画の中でもそういう取組をしてほしいと言いました。4つ目は、総花的なことではなくて、少々偏っているかもしれませんが、具体的に力のある計画にしてほしいと職員に言いました。5つ目は、全体を通じて、「こんなにいいチャンスはないので、職員自身も鍛えられますので、とにかく大いに議論をしてください」とお願いをいたしました。いつも総合計画の中で、「住みよさランキング」というのが話題として出るわけです。私はそんなものが何なのかと思っています。というのも、東洋経済が毎年、発表している「住みよさランキング」というのは、特別な指標だけを取り上げて、全国一律でランキングを決めています。宇陀市は800位程度で、大体、最下位近辺にあるということです。私はそういうものについては、職員のモチベーションも下がり、800位が700位になっても、何にもうれしくない、そんな指標はもうやめるよう、職員には言いました。

つまり、全国の顔を見たこともないまちを相手にするよりも、例えば、奈良県の39市町村の中で頑張っている市町村に対して、われわれも目指していく、とにかく顔の見える相手に対するランキングで競うほうが、やる気は湧きます。データというのは、そういう使い方をして、職員のやる気を上げたいというお話もした覚えがあります。データはうまく使って、できるだけ事実を反映して活用していくようにしたいと思っています。皆様にお聞きしたいのですが、もし宇陀市が全国で最下位だと感じておられる方がおられれば、おっしゃっていただきたいと思います。自慢するほど高くはないとは思いますが、最低ではないと思います。それだけでも、この住みやすさランキングについては、私は非常に疑問に感じているところがございます。負け惜しみかもしれませんが、そのように感じます。先日お配りしたアンケートがお手元にあると思いますが、実はたたき台でございまして、失礼を承知の上で、わかりにくい表現や項目のまま、委員の皆様にお配りしていることをお許しください。私としましては、改めて宇陀市をよくするために、市民の皆様のご意見をぜひ伺いたいという、われわれの思いが伝わるようなアンケートにもう一度、整理し直そうということで今、作業を行っております。今日は不格好な感じになりましたが、また皆様のご意見も伺いたいと思います。いずれにしましても、これまで以上に大きな変化、不安な時代ということで、宇陀市の中期計画を立てていくこととなります。われわれ市役所が情熱を持って議論して、検討して、市民の方へ働きかけていく姿勢が本当に大事だと思っています。われわれ市役所の本気度が試されている計画であると、大げさではなく思っています。「市長として、宇陀市をこうしたい」「職員として、宇陀市をこうしたい」「市民の立場として、宇陀市をこうしたい」という思いや情熱等をしっかりと整理して、本日の審議会の委員の皆様へきちんとお伝えをして、議論していただくよう努めてまいりたいと思います。何卒、お力を賜りますことをお願いして、冒頭の挨拶とさせていただきます。これから、長丁場になりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 委員の委嘱

委員紹介

4. 会長・副会長の選任

伊藤会長を会長に、松塚委員を副会長に選任

伊藤会長（挨拶）：

ただ今、会長に選任されました、伊藤でございます。改めて、よろしくお願い申し上げます。最初に金剛市長からご挨拶いただきましたが、非常に力強いお言葉を頂いたと思います。宇陀市も本気で取り組みたいということですので、今回、委員になられた皆様とともに、慎重に、かつ、大胆にと言いますか、積極的に計画について、ご意見を賜りながら、総合計画の中期計画をまとめていければと思います。実は、この会議の前に金剛市長とお話しする時間をいただきました。現在の変化の激しい時代に12年間、基本構想を変えない

ということが、まず問題があるような気がします。一方、基本的な将来像を描いていますから、大きく変えることもなかなか難しいかと思います。今回は、前期に続いて、中期ということで、前・中・後の真ん中であります。皆様、ご承知のようにコロナ禍で世の中が一変してしまいました。生活様式もこれから大きく変わるでしょうし、デジタル化が急速に進んで、われわれ市民の生活も、環境も変わってくると思います。そういう意味で、今回の中期計画というのは、改めて見直すべきところは見直して、後期計画に繋げていく、あるいは、今後の宇陀市の将来像の実現に向けて、効果的な施策ができるような計画にしていくことが必要かと思います。ぜひとも皆様の積極的なご意見を賜ればと思います。簡単ではございますが、挨拶に代えさせていただきます。

5. 諮問

金剛市長から伊藤会長へ諮問

6. 中期基本計画策定の背景及び策定方針（資料1）

事務局 藤田：

第2次宇陀市総合計画中期基本計画の策定について説明

伊藤会長：

内容についてご意見・ご質問がございましたら賜りたいと思います。いかがでしょうか。以前から委員を務めていただいている方は大体ご理解されていると思いますが、新規に委員になられた方からのご質問でも結構です。何かございますか。

佐々木委員：

初歩的な質問ですが、SDGs とは何ですか。

事務局 藤田：

SDGs の説明を若干させていただきます。SDGs という言葉は、テレビ等でたまに流れることがあるかと思います。SDGs とは、平成 27 年に国連サミットで採択された、国際社会の共通目標になります。誰一人として取り残さない、持続可能な社会の実現を目指して、17 個の目標がございます。17 の目標に対して、169 のターゲットがございます。SDGs の考えにつきまして、各自治体が様々な計画を策定いたします。策定するにあたりまして、SDGs の考えをできるだけ取り込むことを、国は求めております。SDGs は、「貧困をなくす」等の 17 の目標がありますが、現在、総合計画には、この考えが反映されておられません。それで、中期の基本計画を策定する際に、各事業については SDGs のどの項目に対応するのか関連付けたいと思っております。SDGs について、資料を用意させていただきます。

伊藤会長：

まだ十分にご理解いただけなかったと思いますが、要するに、SDGsとは、“Sustainable Development Goals”の略で、持続可能な社会であり続けるために、いろいろな課題を解決していこうと、大きく17の目標を設定したわけです。もっと集約すると、われわれ人間がどうやって暮らしていけばいいのかという社会的な課題があります。もちろん経済・社会・環境という大きな3つの視点から、いろんな課題を解決していくって、われわれ人類が社会で持続的に豊かに生きていけるようなまちづくりをしていくという目標です。まさに、宇陀市が将来ずっと持続可能な地域社会であるために、いろんな福祉とか医療とか、観光、経済、教育等の課題があります。そうした課題を解決していくために総合計画に取り込んでいくということです。今の第2次総合計画の中に反映されていないので、宇陀市もそれに取り組んでいこうということだと思います。なかなかすぐに理解できないとは思いますが、要するに、将来にわたって、子どもたちが宇陀市の中で豊かに暮らせるような、まちづくりをしていくことです。それが世界的に取り組まれている、SDGsなのです。地域的（ローカル）な問題だけではなくて、世界的（グローバル）な問題のことなので、そういう視点も取り入れていかなければいけないだろうということです。また後で資料が届くようでございますので、ご覧いただいて、また質問があれば、どんどん遠慮なく事務局に問い合わせてください。ほかの委員の方、いかがですか。よろしいですか。またお気づきの点があれば、後ほどお時間をいただいて、皆様のご質問を受けたいと思います。それでは、次に進ませていただきます。最初に市長からもお話がありました、市民ニーズの把握方法について、アンケートをするということなのですが、今回はたたき台ということで、皆様にご提供させてもらっています。市民のためのまちづくりですから、市民のニーズを本当に吸い上げることができるのかどうかは、非常に重要な問題だと思います。どういったアンケートを取るのかというのが、7番目の次第でございます。それと併せて、市民ニーズを反映しながら、今後、どのように審議会等で計画策定を進めていくのかについて、事務局から説明をお願いいたします。

7. 市民ニーズの把握方法について（資料2）

事務局 中尾：

各種アンケート調査の実施について説明

8. 今後の進め方（資料3）

事務局 東條：

審議会の開催予定等について説明

伊藤会長：

それでは、アンケート内容について、詳しくはまだご覧になってないかと思いますが、委

員の皆様のご意見を反映させたアンケート調査にしたいということです。ご説明にありましたように、今週の7月9日（金）までに事務局にご連絡いただければと思います。それも含めて、今日は初回でございますので、委員の皆様方、特に以前から委員をされている方、今回新たに委員に就任された方から、この総合計画の中期計画、あるいは、総合計画全体でも結構です。それぞれ思いをお持ちだと思いますので、皆様から少しずつご意見を賜ればと思います。

松塚委員：

商工会です。総合計画はずっとなされておりますが、実現できていないものがたくさんあるので、市長が最初に言われたように、実現可能な施策を具体的に入れていただければ、ありがたいと思います。

井上委員：

観光協会です。観光というのは、特にここ2年のコロナ禍でまったく動かない状態になっています。宇陀市には観光資源が結構あるのですが、実際のところ、かなり高齢化の問題が背景にありまして、具体的に積極的に前に進めていくのは、なかなか難しいところがあります。それと同時に、財政的な裏付けがないのは、頭の痛いところではございます。ただ、コロナが落ち着き、元に戻れば、実質、大きなことを言うわけではありませんが、経済的にも大阪・京都辺りから距離的に遊びに来るにはちょうどいい所です。観光にもう少し力を入れていきたいと思いつつながら、ただ、悩ましいのは財政面と、それを支えている人たちの高齢化というのが、どうも現実のものになってきているのが課題かと思っています。

三本木委員：

森林組合です。アンケートのことを聞いてもいいですか。このアンケートは決定ですか。

事務局 中尾：

まだです。

三本木委員：

市民アンケートということで、3,000世帯の中には、高齢者がいると思うのです。中学生・高校生等の若い人の意見も大切だと思いますが、宇陀で50年も生きてきた高齢者の意見ももう少し反映できるようにしてほしいです。50年の間には、いろんなことを体験されたり、経験されたり、そういう貴重な意見というものをもう少し洗い出してみてもいいのではないかと気がしています。そういうものがこのアンケートには足りないのではないのでしょうか。尋ね方も転入者等、いろいろと探ってくれますが、今日は老人会の代表も出席されていますので、老人会にお願いして、その意見の中には、素晴らしい意見もあるのでは

ないかと想像しています。できれば、取り上げていただければ、ありがたいと思います。今さらできないというのなら、無理は申しません。

事務局 鈴木：

今、委員がおっしゃっていただいたように一応、案ということで、20歳以上で3,000世帯でございますが、今、貴重なご意見を頂きましたので、高齢者につきましては考えていきたいと思っております。

藤田委員：

連合自治会です。私もこのアンケートを初めて見させていただきましたが、もともと自治会は、4町（大宇陀・菟田野・榛原・室生）が連合になっているので、地域特性等もあり、一概に聞いていけば、偏ると思います。人口の偏りや、地域の特性等もありますので、特に山間部の意見も反映できるようにしていただければと思っております。

伊藤会長：

地域別アンケートについて、何か回答はありますか。

事務局 鈴木：

例えば、市民アンケートの1ページを見ていただきますと、1-3で「あなたのお住いの地域を教えてください」とあります。当然、無作為ですので、単純に3,000世帯を1,500世帯、500世帯、500世帯と分けられるのかということもありますが、地域性も検討できるようなかたちも踏まえまして、抽出できればと思っております。

中野委員：

アンケートの件で教えていただきたいのですが、基本的にこのアンケートは一度作成したものを修正されたのでしょうか。

伊藤会長：

これからです。

中野委員：

これから修正されるのであれば、スケジュール的にうまく進められますか。9日までに意見がある人は事務局に出すこととなりますが、それを見ていただいたうえで修正し、アンケートに反映するとなると、スケジュール的に厳しいのではないかと、気になりました。

事務局 鈴木：

本来ですと、このアンケートは7月26日(月)までにポスト投函してもらう予定でした。先ほど事務局の中尾から説明がありましたように、中身の精査をさせていただこうと思っております。確かに厳しいとは思いますが、冒頭、市長が申し上げましたように、市民にとって、よりよいアンケートにするためにも、中身をかなり精査させていただいて、ただ、遅れると言いましても、7月16日には発送することは変わっておりませんので、それに向けて、今週中に各委員様からご意見を頂き、それを反映したアンケートを皆様に一旦お返しさせていただこうと思っております。ただ、もしかして締め切りの関係上、伊藤会長様との調整の中で、アンケートを出させていただく場合もあります。7月16日には必ずアンケートを発送させていただきたいと思っております。先ほど事務局の東條から説明がありましたように、資料3のスケジュール、例えば、「(2)アンケート」については、終わりをこのままのスケジュールで行く、先ほど説明がありましたが、「(10)総合計画審議会」も8月下旬に実施するというのは、変えずに行ければと思っております。

中野委員：

それと、市民アンケートは3,000世帯ですが、2部配るとおっしゃっていた点について教えてください。

事務局 中尾：

3,000世帯に2部ずつお配りさせていただきまして、同居されているご家族がおられれば、2人の方にお答えいただければと思っております。もし同居されている方がおられるのであれば、6,000人が対象になってくるかと思えます。

丸岡委員：

人権推進協議会です。先ほどSDGsの話が出ていたのですが、人推協としましても、人権に関わる内容が多くありますので、取組を進めているところです。そういう内容を計画の中に活かすという話が出たので、たいへん素晴らしいと思っております。それから、もう1点、総合計画の冊子ですが、素晴らしいものができています。ただ、これを市民の方がどうされるのかという心配がありました。何が言いたいかと言いますと、何かダイジェスト版のようなもの、宇陀市が何を目指しているのかがわかるような概要があればいいのではないかと、前回、考えさせていただきました。

事務局 鈴木：

お手元の計画につきましては、本冊子ということでございます。実は平成31年3月に、A3版で8枚ほどの概要版をつくらせていただき、市民の方にお配りしたこともございます。当然、今回も概要版の冊子を考えているところです。

伊藤会長：

その点に関して、アイデアがあります。概要版は良いのですが、1種類ではなく、例えば、子ども向けの概要版もつくる等の工夫があってもいい気がします。予算もあることですが、いかがでしょうか。

事務局 鈴木：

昨年、ある市がつくられたものを参考にさせていただきました。今、会長が言われたように、概要版を6つの「目指すべきまち」ごとに変えようという案もありました。あとは本日、コンサルタント会社と相談させていただきながら、お返事させていただきたいと思えます。

西岡委員：

民生児童委員連合会です。アンケートの中で、転出した人の意見として、宇陀市に住んでいて、どうだったのかと思っています。われわれ自治会でも、田舎のほうでは、昔から伝わる、いろいろな行事等があると思いますが、そういった面を嫌がっているところがあります。若い人たちに残ってもらうためには、どういう生き方で、どういうものがあれば、残って生活していけるか、どこかに勤めることもできるので、奈良県と言うか、宇陀市は、非常に住みやすい所だと私は思っております。そういった面からすると、なぜ転出していかなければならないのか、いろんな条件があると思いますが、そういった面で何とか宇陀市に残ってもらえるような施策ができればいいいつも思っています。特に転出者の意見というのは、非常に参考になるのではないかと考えています。もう少し詳しく聞いていただくのも1つの方法かと思えます。例を挙げることはできませんが、そういったことを考えております。

佐々木委員：

老人クラブ連合会です。先ほど言われたように、市民アンケートは20歳以上となっていますが、老人クラブで相手をしているのは、60歳から上です。これから3年程度が、いちばん高齢者の人口が増えるのです。昭和21年～24年生まれの人が老人会に既に入会していますが、全国的にも増えてきます。もしよければ、20～60歳と60歳以上に分けて、どこかでアンケートを入れていただきたいと思います。われわれもいろいろと会議があるが、1人暮らしが多くなってきているという話が老人会の中でも、頻繁に出てきます。自分の命をどのように始末していくのかという問題にまで行っているのです。様々な制約があるとは思いますが、考えていただきたいと思います。

岡崎委員：

女性の会です。そこで役員をさせていただいて、この審議会に初めて出席させていただき

ました。前回までも女性の会代表の方が来られていたと思います。女性の視点から、この場に出席させていただいて、非常にうれしく思います。女性の会も高齢化していて、地域の中で女の人が連携するのが難しい時代になってきました。というのは、なかなか専業主婦がおられないからです。みんな、お仕事をされていて、非常にいいことだと思うのですが、地域での関係がだんだんと薄れてくるのは、寂しいと感じています。そして、4地域（大宇陀・菟田野・榛原・室生）で女性の意見を互いに言い合える、女性の会は続けていきたいとも考えています。地域によって、それぞれ課題があると思います。私は室生の大野で、駅前が便利な所ですが、市外に出て1人暮らしが終わっても、若い人が帰ってこない、空き家が増えます。駅前の非常に便利な所でも、空き家がたくさんあります。また、ある所では、「空き家を探していますが、知りませんか。こんなに素晴らしい宇陀市に住みたい」という若い人の声も聞くのです。放置されている家がある中で、田舎に住みたい若い人がいるのに、うまく連携ができないのは残念だと常々思っています。みんなの知恵で考えていければと思います。

仲浦委員：

食生活改善推進員協議会です。何度か参加させていただいておりますが、たいへん高齢化が進んでいます。提案があつて、高齢者の立場から入らせていただきました。悪い所ばかりではなく、4つの地域のよさを探って、いかに地域力を発揮していくかが大切です。誰も使わずに古びていく旧校舎の活用をどのように考えていくか、自分の地域にはどういう特産品があるとか、地域のよさを書く欄をアンケートに設けてほしいと思います。ただ、答えるだけではなくて、思っていることを1つにまとめて、室生にはこんなにいい所がある、榛原はこうだといったことがあると思います。若い子が働ける場所もできると思うし、転出者もなくなると思います。みんなの力を合わせて、宇陀市がよくなっていくことを考えていきたいと思います。私たちは食を通して、「薬草でも野草でも野菜でもつくって、休耕田があるから、使ってみてくれない」とか、自分たちの地域に向かって意見を述べられるような、単に答えてくださいというのではなくて、よさを発見できる管理が欲しいです。

奥田委員：

公募委員として、今日、初めて参加させていただきます。私もあまり、こういう公の場に来ることがなくて、普段、障害福祉の仕事をしていますが、計画を立てて、地域の課題を解決していく場面によく出会います。私たちは直接困っている方に出会うので、困りごとをどう解決していくかアプローチするときに、制度化されていれば、スムーズにいくのですが、なかなかうまくいきません。制度の狭間であつたりと、どうしても手立てがなかったりする方に本当によく出会います。そこで、どうしていくのか、いつもすごく悩んで、できないからといって、手を引くのは、目の前に困っている方がおられるの中で心苦しいです。だから、こういう場に出てきて、私たちができることとしては、横連携で手を繋ぐ

ことによって解決していきたいといつも思っています。福祉のほうでも、福祉計画が 2 年に 1 回あるのですが、計画までは立てても、一歩でも前に進むための見直しがどうなのかと思うのです。その場面がなかなか来ないし、自分でもつくりていないという反省もものすごくあります。この計画というのは、福祉のことも含まれていると思うのですが、大きなことになると、福祉計画は漏れてしまいがちです。お金にならないとか、人の力がすごく要るので、やはり行政でないとできない面がとても大きいと思います。計画だけではなくて、施策とか、現場に繋げていくような振り返りをしっかりとしていければいいと思って、この場でお話を聞いていました。具体的にどうするかというのは、難しいですが、私の中にも課題はたくさんありますし、助けてもらいたいこと、やりたいと思っていることもあるので、具体化して少しでも動かさせていければと思います。

福山委員：

公募委員です。私は以前の総合戦略会議のときから、委員をさせていただきまして、今回、見直す時期だと聞きまして、どうしても自分の思いや、今後の子どもたちの明るい宇陀市を残したいという強い思いで参加させていただいているのが、基本にあります。先ほど事務局から説明があったのですが、アンケートに関して、何点か質問させていただきます。期間が短い中で、アンケート結果からよりよい効果を上げられるように、9 日までに提出するということなので、今一度、確認させていただきます。前期と同じ内容のアンケートという文言が事務局からあったのですが、この間、市長も代わられて、新たな思いで進めていこうというときに、どうして前回と同じ内容のアンケートなのでしょう。あと、何をあぶり出したいのか、よくわかりません。私もアンケートをつくる機会があるのですが、アンケートというのは非常に難しいと思っていて、誘導しないといけない側面もありますし、ただ単に、結果を集計したいという思いでアンケートをさせてもらう場面もあります。逆算してと言うか、誘導してということであれば、どういう結果を導き出したいのかをある程度、提示してもらわないと、どの点に関して、意見を述べればいいのか、わかりづらいので、その点をもう少し詳しくお伺いしたいのです。それから、私は子育て世代なので、ここで年齢を言う場面ではないですが、40 歳後半です。今、晩婚化して、子どもを産む時期も遅くなっています。下の子がまだ小学 6 年生です。どうして子育て世代を対象としたアンケートの質問 2 が 49 歳で区切られているのでしょうか。今、晩婚化もお伝えしましたが、20 歳で果たして子育てされている方が宇陀市にいるのかという実情等を踏まえて、もう少し幅を持たせたアンケートにさせていただけると、有意義なものになるのではないかと思います。先ほど女性の委員から意見があったのですが、私は空き家に関わる仕事をさせてもらっていて、空き家対策やマッチングの施策も必要だと思います。都市計画審議会の方も、農業委員会の方も来られていますが、農地法とか、都市計画に関することで、なかなか移住がしづらい実情もあるので、その辺を踏まえて、市長の熱い思いを総合計画の中に盛り込みたいという思いです。

事務局 鈴木：

3点ほど貴重なご意見を頂きました。まず、前回と同じ内容なのは、なぜかというご質問です。最初に伊藤会長がおっしゃったように、基本構想が12個あり、基本計画は4年ごとに見直しをするわけですが、一応、アンケートを取るにあたり、コンサルティング会社ともお話をした結果、あくまでも市民アンケートで言うところの間3までは、前回の振り返りを踏まえて聞こうということで、同じような内容の設問になっております。市民アンケートの間4以降につきましては、今の日本の社会情勢も踏まえて、いろんなことを聞こうということですが、少し聞き方も日本語的な文言で良くないところもあるので、見直しをさせていただければと思います。2点目は、子育て世代の年齢についてです。質問2の「あなたの年齢を教えてください」という設問かと思います。おっしゃるとおり、なぜ49歳が最後になっているのかにつきましては、事務局で直させていただきます。ほかにご質問はありましたでしょうか。いずれにしましても、ご意見を反映させていただければと思っておりますので、今週中に頂ければと思っております。

水野委員：

公募委員です。私はこういう場に来るのが初めてです。本当に普通の主婦で、来年、小学校に上がる子どもがいます。私が気になっているのは、子育て・教育なので、先生も回答者に入れてもらえれば良いと思っています。先生たちのことがすごく気になるので、県なのか、市なのかわかりませんが、先生たちはいろいろと知っていると思います。

伊藤会長：

教育関係はとても大事なことなので、教育委員会の方もいらっしゃいますので、後でご意見があるかもしれません。今、普通の主婦と言われましたが、一般市民の普通の感覚からのご意見が非常に大事です。

片岡委員：

大和信用金庫です。私はこの4月に着任したばかりですので、初めての参加になります。勤務していて、いろいろ思うことはあるのですが、アンケートは市民を対象にしているということでもよろしいでしょうか。先ほどの意見とかぶるかもしれませんが、ほかの市町村から宇陀市に勤務している人に対するアンケートであったり、他の市町村から来られる高校生も対象にしたりして、自分の住んでいる所と宇陀市の違いや、宇陀市にどういものがあればいいという意見も取り入れたほうがいいのではないかと考えています。今さら変えられるか、わかりませんが、入れていただければと思います。

伊藤会長：

貴重なご意見で、宇陀市のまちづくりを、外から見ると中から見ると違うと私も思います。よく見えたり、悪く見えたりするので、分析する際、回答者の属性を見て、何か検討できるかもしれません。ご意見を参考にさせていただければと思います。

松石委員：

南都銀行です。市民アンケートを取って、その意見を踏まえた上で、審議会ですらに発展させていくのは、いい試みだと感じております。対象者のことは、いろいろとご意見があったかと思いますが、目標とされているのは、アンケートの回収率です。回収率が悪ければ反映されないのでは、どういったかたちで調整するのか、特に転出者 500 人の回収は、かなり厳しいのではないかという気がします。なかなか強制もできないところで、どういった回収方法を取って、どれくらいの回収率を目標にされているのでしょうか。結果が少なければ、反映されにくくなりますので、そういったことも念頭に置いて検討していただければと感じているところです。また、SDGs の取組については、銀行でも強力で推進しているところですが、SDGs というのは、普通に活動している内容についても、SDGs に該当するところですので、みんなの意識の問題が重要ではないかと感じております。そういった観点から、この協議会でも発展させていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

長岡委員：

奈良テレビです。前回、政策体系が市長のマニフェストと全然違うので、バラバラにしてマニフェストに近いかたちにすればどうかという話をしました。それは別にして、皆様とは違う話をしたいと思っております。総合計画は当然、出来上がりますが、計画はつくれば終わりではなくて、計画が達成できたかどうか、最も大事です。KPI 指標等をつくられて、目標に対して、さまざまな施策がどのように効いて、目標に近づいていったのか、近づかなかったのかを分析しないとイケません。目標値と現況値のどれを取るのかというのが、非常に大事な話になると思っております。最後に大きな目標として「将来像」がありますが、それを達成するために、今は 6 つに分かれている「目指すべきまちの姿」について、どれが有効なのかを十分に検討して決めていただきたいと思っております。市長の挨拶にも「総花的ではなく」という話がありましたが、体系の中でも優先順位をつけていただいて、絶対にやりたいのはどれなのか、逆に市役所から出してもいいのではないのでしょうか。要するに、「絵に描いた餅」をつくっても仕方がないので、計画がどうすれば実行できるのか、そして、その担保をどうするのかを十分に考えていただきたいと思っております。

梶本委員：

都市計画審議会です。皆様がいろいろと熱い思いを語られているので、あえて言うことはありません。中間地にあたっているということで、前期の見直しを行って、分析をして、いろいろと次の計画に反映されていくと思っております。先ほど言われたように、前期の結果は

どうだったのかをどこで判定していくのか、市長の挨拶の中で、「総花的」、要するに、全体的にレベルアップするわけではないという話もありましたが、私も大いに賛成です。すべてをレベルアップする必要はないのです。ですから、基本計画の中にぶら下がっている各事業について、全部が全部、達成度に伴って、50点とか60点とか評価するのではなく、市長が言われたように、30%しか達成していないが、非常に満足度が高いという市民の声を聞き出すのが本当の評価ではないでしょうか。それによって、次の計画の中に繋げてほしいと思います。もう1点は、先ほども話をしたように、すべてがすべて、全部をレベルアップするのは、財政的にも難しいので、そういう意味では、ピンポイントで今の宇陀市には、これが効果的だという、裁量権と言うか、言葉で表すのは難しいかもしれませんが、アクション計画の中でもメリハリをつけて、宇陀市としてのよさを前面に出していただくような計画になれば、いいのではないかという感想です。

下村委員：

農業委員会です。まず転出者のアンケートというのは、かなり取りにくいのではないのでしょうか。転入者は市に籍を移すのでいいですが、転出者は籍を抜いた時点でどこに行くのか、プライバシーの問題があるため、わからないので、アンケートは取りにくいのではないかと思います。農業委員会の会長として言わせてもらいます。先ほど委員から農地法の問題が挙げられましたが、「下限面積」という言葉を知っておられますか。農地を持っていない人が農地を持つ場合には、許可後の面積が一定以上にならないと許可が出ないというもので、今まで宇陀市の下限面積は、3反でした。竹内市長のときに、空き家があっても、前にある畑を持たなければ、家が売れないという話がありました。それで、取りあえず下限面積は1反に下げてもらいました。もし持っているのが5畝の場合は、農業委員が世話をし借りてもらって、合計で1反にするということです。竹内市長のときに、空き家で負担があったという事実もあります。それから、農業のことで言いますと、平群の菊や五条吉野の柿では、ほとんどがUターンしてきた後継者がかなり育って、20歳代の人もいます。しかし、宇陀市は事業が少ないため、後継者が育ちません。ただ、いい面もあり、宇陀市で農業したいという新規就農者は、奈良県の市町村の中で宇陀市がいちばん多いです。毎月1人くらいの新規就農の申込があります。その人から、なぜ宇陀市がいいのか聞くと、「気候と平坦な所ではできないものができるから」という話でした。国も新規就農者に支援を広めていますので、市も支援していただきたいと思います。あとは余談になりますが、日本人の奥様とオーストラリアの旦那様が結婚して、うちの地元に転入されました。自治会に入ってくれて、子どもは幼稚園と小学校低学年の2人です。なぜ宇陀市に来たのかと聞けば、「宇陀市は住みやすいし、環境がいいので、宇陀市が気に入ったから、宇陀市に来た」と外国人でもそんな話があるので、無作為抽出だけではなくて、そういう人もピックアップしてアンケートを取ってもらうことも検討していただきたいと思います。

吉川委員：

教育委員会です。私は、第 1 次計画の途中で委員として入ったので、詳細についてははっきりとわかりません。途中から参加させていただいて、基本的には宇陀市をよくしようというのがいちばん大事かと思います。それに対して、皆様がどうすればいいのかを考えていただければと思います。教育委員会としましては、子どもたちの教育をどうすれば、レベルが上がり、子どもたちに宇陀市で教育を受けてよかったという印象を与えられるかという責任を、われわれが背負っていると思っております。アンケートにつきましても、1つだけ述べます。中学生を対象にしたアンケートもされており、設問 6 に「宇陀市のことが好きかどうか教えてください」というのがあります。今は小学校高学年なら、成長が速くて、考え方もだいぶ変わってきているので、どんな考えを持っているのか、聞いたほうがいいのではないのでしょうか。最近、中学生になれば、私立中学に行かれて、宇陀市から離れている方もおられると聞いています。小学校高学年なら、ある程度、自分の意見や考えが固まっていると思いますので、その辺りの意見も取り入れて、計画に反映したほうがいいのではないかと考えております。先ほど委員から、学校の先生にアンケートを取るのはいかがでしょうかと言われました。審議会の中で決まれば良いのですが、先生にアンケートを取るよりも、先生に対しては、アンケート結果を見ていただいて、子どもたちの教育に反映していくのが、ベターではないかと考えております。いずれにしましても、宇陀市のためにどうしていくかを考えていきたいと思っております。

伊藤会長：

ありがとうございます。委員の皆様方から、それぞれ貴重なご意見を賜りまして、事務局もアンケートをつくるのに苦勞するかと思います。いいアンケートにして、その結果をきちんといいかたちで計画に反映していくのが、市長の強い思いでもあります。終了時間が迫ってまいりましたが、言い忘れたこと、これだけは言っておきたいという方はいらっしゃいませんか。よろしいですか。今回は中期ということで、前期に引き続きということですが、何名かの委員の方から、「満遍なく」ではなくて、メリハリをつけて、結果が見えるような計画にしていけばどうかというご意見があり、市長も同様の思いだということでございます。アンケートについては、さらに市民の本当のニーズを引き出すという意味で、事務局から説明がありましたように、9日（金）までにご意見をお寄せいただければと思います。これも説明にありましたが、キャッチボールということで一旦、修正したものを皆様にご確認いただいて、決めていきたいのですが、締め切りが間に合わなかった場合には、会長である私が責任を持って、アンケートの修正・作成に携わらせていただきますので、ご理解のほど、よろしく願います。長時間になりましたが、ご協力のほど、ありがとうございました。では、マイクを事務局にお戻しいたします。

9. その他

事務局 鈴木：

その他として、ご報告させていただきます。委員の皆様方におかれましては、いろいろな貴重なご意見を賜り、ありがとうございました。特にアンケートにつきましては、先ほど会長からもございましたように、今週中に何とかいいものをつくって、皆様方にお配りさせていただければと思っております。先ほど、SDGs とはどのようなものかというご質問がございました。本来なら、最初から置いておくべきでしたが、宇陀市の 6 つの「目指すまちの姿」に置き換えた資料を、委員の数だけ事務局としては一応、用意しておりましたので、この後、皆様方にお配りさせていただければと思っております。それと、いろいろとご議論いただいた内容につきまして、事務局で議事録等を精査して、ホームページ等に掲載することをご了承いただきたいと思っております。最後に 2 点ございます。まずは、先ほどのスケジュールにもありましたように、次回の審議会を 8 月 31 日（火）頃にと思っております。正式には、また通知させていただきますが、8 月末にはもう一度、この審議会を開かせていただければと思っているところでございます。2 点目は、7 名の方に新しい委員になっていただきましたが、報酬が出ますので、口座の手続き等もあるため、この後、事務局に教えていただければと思っております。その他については、以上で終わります。

伊藤会長：

今、説明がありましたように、次回の予定は 8 月 31 日（火）ということでございますので、時間等を含めて、事務局から改めて連絡があるかと思っておりますので、その際はぜひご参集いただければと思います。それでは、これをもって、第 1 回の審議会を終了したいと思います。

事務局 鈴木：

伊藤会長には、スムーズな議事進行等、いろいろとありがとうございました。最後に、この 4 月から副市長になられたということで、鴻池副市長より閉会のご挨拶を一言いただければと思います。

鴻池副市長：

本日は長時間にわたり、ご意見を賜りまして、ありがとうございます。皆様の熱い思いを聞かせていただきまして、胸にずしんと来ているところでございます。皆様から頂いたご意見をすべて計画に反映できるのか、どうかとは思いますが、どんな些細なことでも結構ですので、事務局なり、私どもにご提案いただければ、それが宇陀市のよりよい未来に繋がると思っているところでございます。本日を含めまして 4 回、あと 3 回の審議会がありますが、皆様から貴重なご意見を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。本日は、どうもありがとうございました。

事務局 鈴木：

副市長も申しあげましたように、長時間にわたり、慎重審議を賜り、誠にありがとうございました。これで終わりたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

以上